

平成29年度 埼玉県博物館連絡協議会 前期研究会・見学会 報告

日 時 平成29年7月19日(水)
13:30～15:45
場 所 大宮盆栽美術館

参加者

35名 (名簿は別紙)

内容

開 会

あいさつ

- ・開会に先立ち、埼玉県博物館連絡協議会の書上会長及び大宮盆栽美術館の柳橋副館長よりごあいさついただく。

- 1 研究会の部 (13:30～14:30) 会場：大宮盆栽美術館 講座室
 - ・大宮盆栽美術館の石田学芸員を講師に「大宮盆栽美術館における多言語化対応等の現状と課題について～Where are you from? で気づいたさいたまの魅力～」をテーマにご講義いただく。
 - ・開館当初は数種類の外国語のパンフレットを作成していたが、それらの翻訳には不自然な表記が多かった。そのため、大宮盆栽美術館では方向性を正確で自然な英語の翻訳の充実とし、日本語及び英語 (バイリンガル) に絞った対応を行っている。

(1) 大宮盆栽美術館における多言語化対応等の現状

①キャプション

- ・展示キャプション (盆栽庭園)
盆栽の名称は英語、銘は日本語の読みをローマ字で表記している。
- ・展示キャプション (コレクションギャラリー)
説明文は日本語のみだが、毎週 (金曜日から水曜日) A4一枚の英語版の説明文を配布している。(別紙参照)
- ・館内サイン
ピクトグラムを活用している。また、「No photograph, please」と3単語で表記するなど、簡潔な表記となるよう心掛けている。
- ・解説パネル (館内)
日本語及び英語 (バイリンガル) で併記している。

②その他

- ・音声ガイド
日本語、英語、中国語及び韓国語の4ヶ国語に対応している。

「音声ガイド」＝「Audio guide」、「Voice guide」と表記ゆれするなど、ヒューマンエラーが生じることがあるので、二重チェックが必要。

- ・リーフレット

日本語版及び英語版の二種類を作成している。

リーフレットスタンドにも「ご自由にお取りください」を英訳して表記するなど工夫している。

- ・ガイドブック

日本語及び英語（バイリンガル）で併記している。

「公式ガイドブック」と銘打って販売したところ、人気を博し、現在増版している。

- ・Face book

従来は簡単な英語で情報発信していたが、外国人来館者向けのメッセージボード（来館者にメッセージボードを手書きしてもらい、来館者とボードを撮影した写真をアップする）として活用したところ、「いいね！」の件数増加につながった。また、その後、「ゆかた de 盆美」というイベントで日本人来館者にも同様の取り組みを行った。

③翻訳

- ・開館当時、盆栽を専門とする翻訳者がいなかったため、盆栽に興味を持っているALTに翻訳を依頼した。現在は、その翻訳者（英語のネイティブスピーカー）と契約している。
- ・英語表記で分からない点がある時には、翻訳者にすぐに聞くことができる。翻訳者と密にコミュニケーションを取り、盆栽専門の翻訳者として育成している。

④スタッフ

職員 13名（うち2名が英語堪能）

受付 7名（7名全員が英語堪能）

ボランティア16名（うち9名が英語堪能、通訳案内士資格者も）

(2) 大宮盆栽美術館における多言語化対応等の課題

- ・現状は英語に特化した対応を行っているが、その他にも多数訪れる来館者の国の言語にも対応し、多言語化の範疇を広げる必要性を感じている。

①キャプション

- ・展示キャプション（コレクションギャラリー）は毎週更新や当日公開など、即時対応が日常化している。
- ・英訳を確認できる職員が限られているように感じる。

②翻訳

- ・当館は一般的な美術館とは異なり、盆栽及びその関連資料を収蔵する美術館のため、翻訳に関しても独自の道を進んでいる。（反面、注目度が高まるなど良い面もある）
- ・盆栽の展示キャプションの翻訳については、直訳ではネイティブには不自然な英訳となってしまうため、かみくだいた英語表記となるよう、翻訳者

も努力してくれている。

学芸員も、翻訳しやすいキャプション原稿を用意する必要性は感じているが、残念ながらその余裕がないというのが実情である。

- ・翻訳のダブルチェックが行き届かず、対応する人によりチェックの充実度が異なる。

③スタッフ

職員 英語や多言語や多文化に対する理解や知識向上の必要性を感じる。

受付 非常勤という勤務形態だが、英語に関する業務については、幅を広げる必要性を感じる。

ボランティア 積極的な人の「活躍できる場」を作ることが大事。

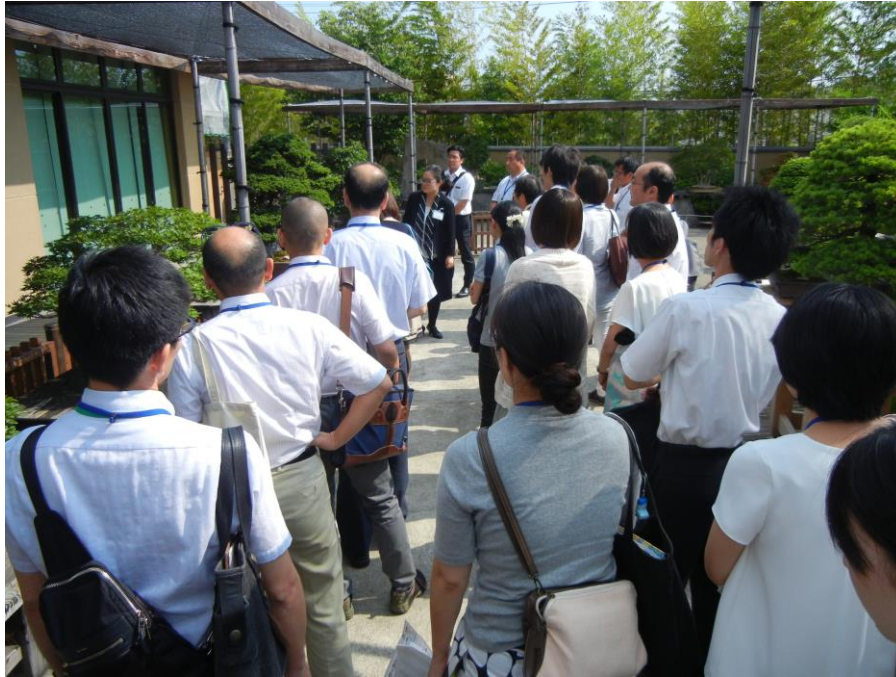


研究会の様子

(3) 大宮盆栽美術館における多言語化対応等の展望

- ・従来、希望者のみを対象にボランティア研修を実施していたが、平成28年度より全員で英語のボランティア研修の実施を開始した。
- ・目標は、①指さしでいいから外国人来館者に必要なことを伝えられるようになること、②「Hello」、「Welcome」、「Good bye」を言えるようになること、つまり、スタッフ全員が簡単な英語でコミュニケーションをとれるようになることである。
- ・現行の盆栽ワークショップにおいて、希望者にのみ英語による指導補助を行っているが、将来的には、英語のワークショップの実施を目標としている。

- 2 見学会の部（14：45～15：45） 会場：大宮盆栽美術館
- ・石田学芸員の解説で、コレクションギャラリー、盆栽庭園及び企画展「夏休み子どもぼんさい美術館」を見学。



見学会の様子

以上